

グループ名	ユニット名等	科 目 名	担当教員名	対象学年次	学期
自己発見	2単位 日本を知る	日本の歴史B	高山 有紀	1年次	秋

授業のキーワード	精神史、文化芸能、歴史の見方
授業の概要	死生観、歴史観をテーマに、日本文化の形成に影響力をもったとみられるさまざまな思想を扱います。思想史、精神史に比重が置かれる授業です。「日本の歴史A」の履修を前提としません。
期待される学習成果（目標）	多様な「ものの捉え方」があることを知り、人間の生き方、社会のあり方について幅広い視野を持つことができるようになります。身近な年中行事を通じて、日本文化について再考する機会を得ることができます。

## 授業展開

	テーマ	内 容		テーマ	内 容
第1講	はじめに	授業の進め方を説明します。日本史の学習体験に関するアンケートを行います。	第9講	年中行事③	「正月」、「盆」を通して、日本文化と「神仏」の関係について学びます。
第2講	死生観①	浄土思想の歴史的発展と日本人の「死生観」について学びます。	第10講	年中行事④	「正月」、「盆」を通して、日本文化と「神仏」の関係について学びます。
第3講	死生観②	浄土思想の歴史的発展と日本人の「死生観」について学びます。	第11講	年中行事⑤	第7～10講の学習内容を総括します。
第4講	死生観③	「死生観」と関連し、中世の人々の「遁世」や「夢」について学びます。	第12講	歴史観①	慈円や新井白石の考え方を題材に、中世～近世における歴史観について学びます。
第5講	死生観④	近世の人々の「死生観」について学びます。	第13講	歴史観②	近代以降の歴史観を戦争との関わりの中から学びます。
第6講	死生観⑤	第2～5講の学習内容を総括します。	第14講	歴史観③	近代以降の歴史観を歴史学習との関わりの中から学びます。
第7講	年中行事①	「節供」の成り立ちを通して、通過儀礼の重要性や日本文化の型について考えます。	第15講	まとめ	全体を総括し、歴史を学ぶ意味について考えます。
第8講	年中行事②	「節供」の成り立ちを通して、通過儀礼の重要性や日本文化の型について考えます。	定期試験		浄土思想や年中行事等の発展の経緯について説明を求める試験です。基本的な用語の知識も確認します。
評価方法		授業への取り組み30パーセント、試験70パーセント（中間課題と期末試験）。			
使用する教科書（必ず購入してください）			参 考 文 献		
教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布します。			大隅和雄『信心の世界、遁世者の心』（中央公論新社） 相良亨『日本人の心』（東京大学出版会） 佐藤弘夫ほか編『概説日本思想史』（ミネルヴァ書房）		